冗長化済みLDAPサーバに対する設定方法

すでに冗長化されたLDAPサーバが存在する場合(例えば ldap1.example.ac.jp と ldap2.example.ac.jp)、それを列挙しておくことで一部が動作しなくなってもIdPとしてのサービスを継続することができます。（指定されたストラテジーに従いあるノードへ接続を行ない失敗した場合は他のノードを試みます）

下記の2カ所の設定が必要です。両方設定しないとうまくfail overしませんのでご注意ください。

1. `login.config`
   https://wiki.shibboleth.net/confluence/display/SHIB2/IdPAuthUserPass#IdPAuthUserPass-Failoverconfiguration
   に従って `ldapUrl` にノード名を列挙します。タイムアウト設定についても `timeout` として例示されていますのでご参照ください。
2. `attribute-resolver.xml`
   LDAP DataConnectorに設定します。
   https://wiki.shibboleth.net/confluence/display/SHIB2/ResolverLDAPDataConnector#ResolverLDAPDataConnector-MultipleLDAPReplicas
   に従って `ldapURL` にノード名を列挙してください。タイムアウト設定については以下に説明があります。
   https://wiki.shibboleth.net/confluence/display/SHIB2/IdPMultipleLDAP#IdPMultipleLDAP-Connectiontimeout

もし、1.の timeout が機能していないようであれば、2.の2番目のリンクに書いてある `jndi.properties` による方法をお試しください。